

庄戸地区（神戸橋地区）技術検討会設置の趣旨について

庄戸合同委員会案	修正案	備考
<p>NEXCO 東は庄戸3～5丁目は非開削（NATM 工法）、4丁目は開削、神戸橋地区は高架橋方式になると説明しているが、工事公害や庄戸周辺家屋の地盤変位への懸念が大きい他に、高架橋による騒音、振動、低周波振動の招来、庄戸の直近家屋への直接的な影響や神戸橋地区の景観の劣悪化さらに大気環境の悪化などから、庄戸住民だけでなくコートハウス、西ヶ谷の各自治会も現計画の見直しを求めている。</p> <p>庄戸合同委員会は、「環状4号線下越えルート」は実現性が高いものであり、完全地下ルート化によって周辺環境を現状のまま維持できると見ている。また庄戸地域の一部の盛土部分や土被りが浅いことから非開削の場合でも NATM 工法では不安があるため、他地区で採用され、その根拠として「環境への影響が最小」と説明されているシールド工法に転換すべきであると主張している。環状4号線下越えルートを採用しシールド工法に転換すれば、釜利谷から笠間町まで地下一貫工事により工事公害の大幅な低減が可能になるほか、工期の大幅な短縮と工事費の削減も可能になると見ている。</p> <p>これらの状況から横浜市はNEXCO 東に対して「幅広く工法を検討する」よう指示を出した。庄戸地域、神戸橋地域への影響を最小化し、安全で信頼性の高い工法の選択を目的として本検討会を設置する。</p>	<p>横浜環状南線の道路構造は、庄戸地区においては地下構造、神戸橋地区においては高架構造として計画決定され、事業が進められているところである。</p> <p>この計画について、庄戸1、4、5丁目及び港南台コートハウス、西ヶ谷の各自治会は、工事公害や周辺家屋の地盤変位への懸念が大きい他に、高架橋による騒音、振動、低周波振動の招来、庄戸の直近家屋への直接的な影響や神戸橋地区の景観の劣悪化さらに大気環境の悪化などから、環状4号線を下越えする計画への見直しを求めている。</p> <p>また、同自治会は、「環状4号線下越えルート」は実現性が高いものであり、完全地下ルート化によって周辺環境を現状のまま維持できると見ている。また庄戸地域の一部の盛土部分や土被りが浅いことから非開削の場合でも NATM 工法では不安があるため、他地区で採用され、その根拠として「環境への影響が最小」と説明されているシールド工法に転換すべきであると主張している。環状4号線下越えルートを採用しシールド工法に転換すれば、釜利谷から笠間町まで地下一貫工事により工事公害の大幅な低減が可能になるほか、工期の大幅な短縮と工事費の削減も可能になると見ている。</p> <p>一方、事業者のNEXCO東日本は、現計画が自然・住環境、エネルギー効率、コスト及び工期等を総合的に勘案して適切なものであると判断しており、加えて施工後の緑地整備等による魅力的な住環境の創造や、緊急避難路の確保による地域防災力の向上等にも資するものと考えている。</p> <p>さらに、庄戸地区のトンネル構造については施工時の住環境への影響を考慮し、沈下対策工法と計測施工による地表面沈下予防を含む非開削工法の適用について検討を進めているところである。</p> <p>これらの状況を踏まえ、横浜市より事業者のNEXCO東日本に、「環状4号線下越えルート」の検討について要請があった。この要請を受け、NEXCO東日本はこの検討を行うこととし、あわせて当該地域の道路構造について地域住民と事業者が技術的課題を含む話し合いを行う場として本検討会を設置するものである。</p>	